

さの高典県議会報告

NO20 平成17年12月

発行 佐野高典事務所

電話 572-1375

一年を振り返って・・・

「光陰矢のごとし」と申しますが平成十七年も早や暮れようとしています。

政治の世界では、郵政民営化に伴い、思いもかけず衆議院が解散され総選挙が行われました。法案に反対した議員の選挙区ではことごとく「刺客」という名(マスコミでは)の公認候補を擁立し、まさに「小泉劇場」という舞台を作り上げ、自由民主党は二九六議席を獲得、滋賀県第一選挙区においても「上野賢一郎」氏が悲願の議席を獲得するという快挙を成し遂げました。

一方、国内外を問わず様々な事件や事故が発生した一年でもありました。アメリカではハリケーン「カトリーナ」の襲来により多くの犠牲者や被害が発生、パキスタンにおいては未曾有の地震により多くの死傷者が出るという天災に「人間」の力の弱さを垣間見た思いが致しました。

また、イギリス、ロンドンにおいては、無差別テロにより多くの人命が奪われ、国際テロへの対応に各国が取り組む必要を今更ながらに感じたところでもあります。国内では、比較的大きな災害は発生を致しませんでした。小学校一年生の女児が連続して殺害されたり、塾の先生による生徒殺害など心痛める事件が数多く発生し、かつての「安全神話」が崩壊しようとしています。家庭・学校・地域が協力をしながらもう一度、安全・安心の「地域社会」を作らなければならないと考えます。

明るい話題もありました。三十五年ぶりに「万国博覧会」が愛知県で開催され、多くの来場があり大成功に終わったことや、皇室の紀宮様のご成婚は、暗い世相の中において大輪の花が咲いたようでありました。心よりお祝いを申し上げますのであります。

さて恒例の一年を表す漢字は「愛」という漢字が選ばれ、清水寺の管長は黒々とした墨で見事に「愛」と記して頂きました。様々な暗い事件や事故のあった一年ではありますが、久方ぶりに「愛」という温かい漢字が選ばれたことに心休まる思いが致します。

そして、本年は戦後六十年という節目の年に我が自由民主党は結党五十年を迎えました。戦後一貫して日本の平和と繁栄を築いてまいりました我が党も多様化する国際社会において「誇りの持てる国日本」を今後も築いていかなければなりません。

私たち地方議員も厳しい財政状況の中ではありますが「キラリと光る郷土・滋賀」のため叡知を結集し邁進する所存であります。

今後とも格段のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

本年も残り少なくなつてまいりましたが、「ご自愛を頂き」ご家族お揃いで輝かしい新年をお迎え頂きますようご祈念申し上げます。

委員会活動より

文教警察・企業 常任委員会

常任委員会は、去る11月22日竣工間近な米原警察署を訪問し、警察署の機能や新しくなった留置場や取調室などを見学、その後、守山市に完成した総合サッカー場「ビッグレイク」を視察。



総合運動公園の指定管理者制度について



大分県議会において行財政改革について研修

地方分権推進 対策特別委員会

特別委員会は、去る十一月十五日より十七日まで大分県議会、島根県議会へ県外調査を実施、各県の行財政改革や指定管理者制度の実施状況を研修。各県ともに厳しい財政状況の中、歳入の確保や歳出の見直しなど、それぞれに努力をされています。

議 事 録 議 員 高 典 の 活 動 よ り

12月定例議会 一般質問より



- 1、防災について 防災対策について
- 2、滋賀の環境について 環境対策型エンジンへの転換について
硫酸ピッチ問題について
- 3、仮称・しがの農業・水産業中期プランについて
今後の転換作物 麦・大豆・野菜について
集落営農・特定農業団体育成について
安全・安心な農産物の供給について
今後の水産業について
- 4、プレジャーボートの係留保管の適正化について

防災について

本県において、琵琶湖西岸断層帯地震は、マグニチュード7.8程度で発生確率は0.09〜9%と高いものとなっております。それに伴い様々のケースを予測し、死傷者約一、四〇〇人、倒壊家屋約一〇〇、〇〇〇棟、避難者数は八三、〇〇〇人に及ぶと被害想定をされています。

住民は、自らの安全を守る対策を講じなければなりません。県民の安全・安心を守る行政として予防的対策や災害発生時の対策を進めていかなければならないが、知事の考えを問う。



知事の答弁

阪神・淡路の大震災から本年一〇年となり、本年を「減災元年」と位置づけ地震対策を進めてきました。

特に、学校など重要な公共施設の耐震化を重点的に進めるとともに、個人木造住宅についても、無料の耐震診断や耐震改修への支援を強化していきます。

社会インフラの整備については、道路事業では、緊急輸送路の役割のためにも橋などの耐震化、港湾についても湖上輸送の拠点施設として整備を進めます。いずれに致しましても、災害が発生したときには県民と行政が協働して取り組むことが必要であり、平素から「減災」を目指し対策を進めていきたいと存じます。

これからの農業について

農政水産部長答弁

現在、八三三ある集落営農組織がある中、特定農業団体などに発展したものは七五団体となりました。

プランでは、平成二十二年には四〇〇団体を目指しています。

米以外の品目については、麦・大豆が中心でありませんが、今後は野菜や果樹などの生産拡大も必要です。特に野菜では、白菜・キャベツ、果樹では梨・ブドウを中心に、地域の特性を生かしたプロッコリーやイチジクなども伸ばしていきたい品目があります。

また、滋賀の農業として「環境こだわり農業」を推進し、生産量と品目の拡大に努めてまいりたいと考えています。ソフト面では、「田んぼの学校」などの実践により子供が田んぼに足を入れ、作物を自分たちの手で育て、収穫し料理して食べるという体験学習にも力をいれてまいります。



志賀町で行われている不耕起栽培の植え付け

トピックス

政治に興味や関心がなく、投票しても政治がよくなるかと思っている高校生が、約四三%にも上っていることが県のアンケート調査でわかりました。

その中には、「政治や政治家を信じていない」「魅力ある候補者が少なくなった」と答えている高校生もあり、我々政治を志す者もしっかりとしなければと改めて感じています。

そのような折、県立堅田高校の三年生の皆様が県議会の一一般質問の傍聴に来てくれました。私も、丁度質問者のトップバッターとして、

上記のような質問をさせて頂き、執行部の考え方を質しましたが、高校生の皆さんに生の県政の動きが肌で感じていただけたでしょうか？

少し心配であります。三日間にわたる傍聴で少しは政治に関心を持って頂けたでしょうか？ これからも機会があれば是非県議会に来ていただきたいと思います。



年の瀬を迎えましたが、この一年間皆様には大変お世話になり有難うございました。これからも県政発展のため元気に頑張らせていただく決意であります。今後とも変わらぬご指導とご鞭撻の程お願い申し上げます。皆様のご健康とご多幸の程ご祈念申し上げます。